



第 94 号

2018 年 10 月 13 日 発行

巻頭言	1～2
私の薦めるこの 1 冊	3
Welcome to SGU Library	4～5
自著紹介	6～7
from Library、編集後記	8

図 書 館 4 0 周 年 —今までとこれから—

図書課長 京谷 正博

札幌学院大学図書館は 3 号館と共に 1978 (昭和 53) 年 1 月に竣工しました。同年 4 月 1 日に落成式が挙行され、学生・教職員、そして当時としてはまだ先進的であった学外者一般市民への開放を行い、知の拠点としての運営が開始されました。それ以前は、2 号館の 1 階、現在の図書館 A・B 書庫の場所に「図書室」としてやや控えめに存在しておりましたが本格的な「図書館」としてスタートを切ったのでした。そして今年、2018 (平成 30) 年 4 月で札幌学院大学図書館が開館してちょうど 40 周年にあたります。「図書館 40 周年」について『書林』の原稿を書くに当たり、この図書館との関りが最も深い者として私が指名されました。私は 1979 (昭和 54) 年に人文学部人間科学科に入学し、卒業後は札幌商科大学 (現在の札幌学院大学) に職員として採用され、図書館に配属、その後、2011 (平成 23) 年 7 月に教務部に異動しましたが、4 年後の 2015 (平成 27) 年 7 月にまた図書館に戻り現在に至っております。ですから、学生時代の 4 年間は利用者として、31 年間は図書館職員としてこの図書館の運営に関わってきました。

1975 (昭和 50) 年に図書館建築推進委員会が組織され当時の図書館界の動向、他大学の先進的な図書館等を調査・検討し基本コンセプトを策定しました。このコンセプトは時代を経ても色褪せず、現在の図書館運営においても十分に機能するものです。具体的には以下のとおりとなります。

1. 図書館活動の基本的な考え方

- ① 本学図書館は、本学の教育・研究活動の方向を的確に把握しながら、図書館の基本的な機能である文献・資料の統合的と系統的な収集・整理・保存を経て、情報センターとして積極的に情報を提供することをもって本学の教育・研究を支える重要な使命を担っている。
- ② 利用者である教職員・学生全体に対して、平等に利用する機会と方法を保障することを原則とし、広く地域住民にも開放する。
- ③ 上記の重要な役割を果たすべく、諸条件を整備し、民主的な運営を行う。
- ④ 同時に利用者と資料の媒介となる職員の能力を高めるべく、研修の促進、働きやすい環境づくりに努める。

2. 機能上の考慮

- ① 位置：便利で入りやすい位置とする。
- ② 規模 (10 年後予定数)：3 学部 5 学科、学生数 3,600～4,000 名、教員数 70 名、図書館職員数 13～14 名 (未検討)、蔵書数 20 万冊。

- ③ 開架方式の採用
- ⑥ 少人数で運営できる機能的な図書館
- ⑦ 身体障がい者に対する配慮

1978（昭和 53）年に開館した図書館は、その後、学部・学科の増設、図書・雑誌等の資料の増加、資料の多様化による視聴覚資料の導入とAVブースの導入、ICTの進展に伴い、OPACやネットワークを介したデータベースを利用するためのパソコン、学生が自由に使えるパソコンの導入等に対応するため、1985（昭和 60）年と 1997（平成 9）年に大幅な増改築を行いました。

1985（昭和 60）は、書庫・書架部分の増築で、皆さん 1 層書架と 2 層の本棚で前 2 連と後ろ 2 連で書架の色が違っていることに気づいているでしょうか。前の部分が白、後ろの部分がグレーになっています。1978（昭和 53）年の開館当初は現在の前 2 連の白い書架の部分までで、1986（昭和 61）年に 1 層・2 層のグレー書架の部分、1 層に貴重庫、2 層にマイクロ庫を設置し資料の増加及び多様化に対応しました。

1991（平成 3）年に 3 層の奥に電動集密書架による第 1 書庫を増設し、開館当初の 2.5 倍の収容力にしました。

この間の学部・学科の増設に伴い学生数も大幅に増え閲覧室が手狭になり、試験期等では閲覧座席に座れず図書館の床に座り込んで試験勉強をする学生も見られるようになり 1997（平成 9）年には閲覧室の増設を行いました。当初の閲覧室は、現在の第 1 閲覧室のみでした。1 階部分に視聴覚室、第 2 閲覧室、第 3 閲覧室を増設しました。皆さん、現在の視聴覚室から第 1 閲覧室を見るとレンガの壁になっていますよね、これが増築前の外壁なのです。図書館の外側に視聴覚ブースを設置した視聴覚室と 4 人がけの閲覧机 38 台を設置した第 2 閲覧室、そしてキャレル 70 台を配置した第 3 閲覧室が完成しました。また、当時の 2 階部分は、図書館以外の施設でありましたが、ここも閲覧室に転用し第 4 閲覧室と第 5 閲覧室にしました。第 4 閲覧室にはパソコンブース席を導入し、図書館資料とインターネット情報が活用できる環境を整備し、第 5 閲覧室は、グループ学習室として会話が許された閲覧室として利用に供されました。この時、すべての閲覧室に冷暖房設備も設置し、快適な利用環境も整備しました。その後、大学での学修方法の質的転換が求められ、講義形式にアクティブラーニングが導入されました。それに伴い図書館にはラーニングコモンズを設置し学生同士、学生と教員が協働して学修する場の整備が求められました。本学図書館でも第 5 閲覧室を 2016（平成 28）年 10 月にラーニングコモンズ Leaf-C³としてリニューアルしました。このように増改築を行い現在の図書館の形が出来上がってきたのです。利用環境の改善・拡充と同時に、所蔵する図書・雑誌の数も徐々に増えてきたため、1995（平成 7）年に 2 号館に約 8 万冊収容の A 書庫を増設、更に 1998（平成 10）年に同じく 2 号館に約 10 万冊収容の B 書庫を増設、それでも蔵書スペースが不足し 2006（平成 18）年に 2 号館 C 書庫を増設し約 5 万冊の収容スペースを確保し現在に至っています。

札幌学院大学は、2021 年度に新札幌キャンパスをオープンさせ新たなステップに入ります。新札幌キャンパスの 2 階に新たな図書館施設を設置することになっており、現在、その設計の検討が行われております。この新札幌の図書館施設も当初の図書館コンセプトである「図書館活動の基本的な考え方」を確認し、利用しやすい図書館創りを進めて行きたいと考えています。



■ 私の薦めるこの1冊 ■

『あなたの人生の物語』 テッド・チャン著

＜早川書房 2003 年＞



内 駿太朗（人文学部英語英米文学科3年）

言語は人間の専売特許だとはよく言うものですが、もし言語を用いる人間ではない生命体がいたらどうなるのでしょうか。それも動物のような単純なものではなく、人間のように意味を持った言語でコミュニケーションをとる存在だったとしたら。そんな空想に役立てくれた本です。

…なんて少々難しげに、僕の知的好奇心を丸出しにしてみました。が、本質は少し違います。確かに SF として非常に深い物語ではありますが、ならばなぜ「あなたの人生の物語」なるミニマルなタイトルがつけられているのでしょうか。その真実が明かされたとき、膝を打つと共に切なさや去来してきました。SF らしく専門的で高難易度な会話を前に、ページをめくる手が止まりそうになるかもしれません（実は僕もそうでした）。しかし最後には達成感と感動が待っています。言語、時間、そして命。3 つを有機的に絡ませた作者の技に脱帽です。

「メッセージ」というタイトルで映画化もされていますが、原作を先に読むのがおすすめです。自分の頭で想像してから、映画を観てイメージの差を楽しむ。そんな体験をして欲しいのです。

【 図書館所蔵 2 層書架：文庫 933/CHI 】

『東大院生が開発！頭のいい説明は型で決まる』 犬塚壮志著

＜PHP 研究所 2018 年＞



斎藤 颯人（人文学部人間科学科2年）

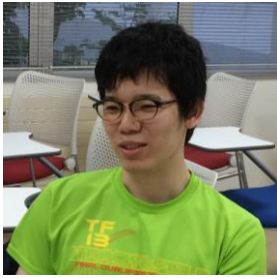
大学生はレポートの執筆や就活での受け答えなど、文章力を求められることが多くあります。しかし、わかりやすい文章を書くことや、わかりやすい説明をすることが難しいと感じている人も少なくないはず。そんな方に必見の内容となっています！

文章を書いたり、説明をする際にはいくつかのポイントがありますが、本書では、「IKPOLET 法」というフォーマットが紹介されています。相手の興味を引くためには、相手の立場を考えなくてははいけません。相手にわかってもらうには相手が持っている知識とつなげなければいけません。相手を納得させるには、具体化しイメージを共有できればいけません。このような説明で必要なスキルのポイントを知り、意識することができれば格段にわかりやすさが向上します。もちろんレポートや就活だけでなく、普段の会話でも活用できるポイントも数多くあります。文章を書くことに行き詰った時にはこの本を開いてみてはいかがでしょうか？

【 図書館所蔵 1 層書架：和書 809.2/INU 】

あきやま のぞむ

秋山 望さん（経済学部経済学科3年）



かたせ しょう

片瀬 翔さん（人文学部臨床心理学科3年）



今回は、ほぼ毎日のように図書館を利用してくださっていて、入学から現在までの貸出冊数が何と数百冊に及ぶ秋山さんと片瀬さんのおふたりにインタビューしました。

ーいつも図書館を利用させていただき、ありがとうございます。ふだん、どのように利用してくさっていますか？

秋山：日曜日以外は毎日、授業が終わった後に来ています。本を読んだり、勉強したり、ラウンジで雑談したり、目的はいろいろ。一番落ち着いて作業ができる場所です。実は、本学に入学したのは図書館が気に入ったからでした。

片瀬：水曜日と日曜日以外は来ますね。授業の合間やたまに授業をサボって来ることもあります（内緒です）。

ー資料もよく借りてくださっていますね。入学してから現在までの貸出冊数が数百冊ということで、膨大な量に驚きました。

秋山： はい、よく借りています。SFのなかでも小松左京のようなスケールの大きいものや宇宙SFが好きですね。科学者でも分からないことについて想像をめぐらすことができるので、知的好奇心でいっぱいになります。クラーク著『幼年期の終わり』（図書館2層書架：文庫933/CLA）のような名作を読みたいと思います。

所属学部の専門に関しては、ピケティやマルクス経済に興味があります。世界情勢について関心があって国際経済のゼミに所属していますが、浅川雅己先生の研究室を訪ねて『共産党宣言』の読み合わせをしています。

片瀬： 僕も図書館が好きで本学に入学しました。美術系の高校だったので美術大学への進学を考えていたところ、見学に行った大学は僕が好きな芸術系ではなくデザイン系の大学だったこともあり、将来のことも考えて、もともと関心があった精神分析やカウンセリングを学べる本学にしました。

フランス哲学や現代思想にも関心があります。従来の哲学より現代思想の方が好きですね。マルクスとフロイトは同時代人で、かれらの知見が現代思想やフェミニズムに影響を与えたと考えています。

デザインは今も続けていて、大学祭や映画研究会、演劇部などのポスターや文芸部発行冊子の表紙は僕がデザインしました。アイディアをまとめる段階の下書きを図書館でしています。人に見られる刺激のなかで作業できるのがいいですね。

ーところで、お二人はどのようなきっかけで知り合ったのですか？

秋山： 1年生の時に「日本文学」の授業で片瀬くんが座っていた椅子が壊れて……。その時隣

に座っていたのが僕でした。二人ともドストエフスキーが好きで話が盛り上がり、それから片瀬くんには誘われて文芸部に入部し、読書会でイシグロカズオやエドガー・アラン・ポーを読んでいます。千葉雅也著『勉強の哲学：来るべきバカのために』（図書館 1 層書架：和書 002/CHI）も片瀬くんが薦めてくれたのですが、とてもおもしろかったので自分でも購入しました。



—椅子が壊れてたいへんでしたが、すてきな出会いになりましたね。秋山さんは片瀬さんから影響を受けているようですが、片瀬さんはどんな本を読みますか？

片瀬：ジャンルとしては、精神分析、ジェンダー、現代思想、芸術と歴史かな。小学生の頃に『三国志』や『水滸伝』を読んで以来、歴史に興味があって、最近読んだのは第二次世界大戦やヒトラーについての近刊本です。文学では主にポストモダン、実験文学やメタフィクションかな。ピンチョン（高校生の時に読んだ）、ナボコフ、ヴァージニア・ウルフのほか、スタンダールやデュラスなどのフランス文学も好きです。日本作家では筒井康隆の『虚航船団』（図書館 C 書庫：和書 913.6/TSU）が面白い。ジャック・デリダの哲学は問いかけが多く、日常のなかで見過ごされている暴力と自分の言動に対する振り返りや気づきを与えてくれます。ジャック・ラカンが難解な内容だけど、読んでいるうちに見えてくることもあるので読み続けています。



—お二人とも 3 年生ですが、今後学びたいことや将来の目標などについてお聞かせください。また、図書館への要望などありましたらお願いします。

秋山：将来についてはまだ漠然としています。3 年生になって経済学をちゃんと学ばなければならなくなったり、得意な英語も学びたい。限られた時間のなかで自分が何をやるべきか、すごく悩んでいます。まさに「懊悩」ということばがぴったり。目標もまだ見つかっていないので、就職についても見通しが立っていません。少し考えているのは語学力を使って社会貢献の NGO で働くこと・・・かな。

図書館には『光文社古典文庫』のような新訳本を入れてほしいです。それから、図書館は地域と関わりをもつことが大切かなと思います。もっと利用してもらえるような工夫をして、地域と大学の交流の場になればいいですね。

片瀬：『光文社古典文庫』はいいですよ。僕も入れてほしいと思います。

今後の目標に関しては、フランス文化（音楽、映画、美術）が好きなので、フランス語検定 4 級を目指して学んでいます。自分の絵や歌詞などの作品展（個展）を開くことも目標のひとつ。さらに大学院へ進学したいので、卒論執筆が今後の課題になりそうです。

将来は好きなことをしていきたい。例えば、フランス留学とかカウンセラーとか。この社会の流れに加担したくないという思いもあります。

図書館への要望として、美術系の本（文字で書かれたものではなく）をもっと入れてほしいですね。ほかには易学を体系的に学べる本があるといいのでは。占いを好きな人が結構いて、ニーズはあると思います。あとは、図書館でもっとイベントをやってもらいたいです。昨年、「集まれハルキスト！」（村上春樹ファンの集い）に参加しましたがとても楽しい企画でした。ラーニングコモンズを有効活用してほしいし、授業との連携ももっとあるといいかなと思います。

—本日はありがとうございました。

『アイヌ文化の基礎知識』増補・改訂版

アイヌ民族博物館 監修
増補改訂版 児島恭子 監修
＜草風館 2018 年＞



アイヌは日本の先住民族です。そのアイヌ民族の文化を知ってもらおうと、1993 年に白老町のアイヌ民族博物館の監修で、初版が刊行されました。こう書いただけでは当時の本書の刊行の意義がわかりませんので、少し説明します。

1970 年代、世界では少数・先住民族や女性、子どもなどの権利を擁護する活動が起きてきました。アイヌの人々が、単一民族で構成されているとみなされていた日本で苦闘してきたことは皆さんもご存知でしょう。そのなかで、白老町では 1976 年、アイヌ民族博物館が設立され、観光地ポロトコタンにアイヌ文化を展示し、踊りを披露し、その活動によって多くの観光客がアイヌ文化に触れました。

観光客の中には、アイヌは昭和時代になっても近代的な生活を送ってはいないどころか、農耕をせず、狩猟生活をしている人々だという誤ったイメージを抱いて白老に来る人も少なくありませんでした。あまりの無知さに、アイヌの人々は苦笑せざるを得ないこともたびたびありました。今では、異文化理解という考え方や、誰もが多様な人々と共存する社会の一員であるという教育は当然となっていますが、アイヌ文化を、消え去るべき古文化の残存とのみ見る根強い考え方があったのです。観光地でしかも学芸員がいる博物館という組織のもとで、文化の継承や研究がすすめられました。アイヌ文化の見聞が一過性のことでなく、より広く正確な知識をもってもらいたい、日本中の人々にアイヌ文化を知ってもらいたいとの考えでこの本は生まれました。アイヌの人々にとって、自分は非アイヌの大多数の日本人と変わらない生活文化で暮らしていても、遠い先祖から受け継がれてきた文化は先祖とのつながりを感じる、自分の存在を意識する重要な拠り所です。しかしそれは、日本は単一民族すなわち単一文化であるという圧力の下で消えかかっていた。アイヌ民族にはアイヌ文化があること、そのアイヌ文化とはどういう文化であるか、アイヌ民族博物館は思いを込めてこの本を世の中に送り出したのでした。その 1993 年は国連が定めた「世界の先住民の国際年」にあたりました。

1997 年にアイヌ文化振興法が制定され、アイヌをめぐる社会状況も大きく変化する中で、この本は 1993 年のままでした。文章中の表現には古さを見せる部分もあり、掲載された情報も更新されずに古いままでした。とうとう 13 版を重ね、その在庫がなくなりかけたタイミングは、アイヌ民族博物館が 2018 年 3 月で閉館する予定のさなかでした。2020 年には国立アイヌ民族博物館が白老に開設されるのです。私は改訂版作成の連絡係として多忙な執筆者に急いで最低限の増補・改訂をお願いし、今年 1 月、刊行にこぎつけました。この本には、記念碑的な意義があります。それを感じながら読んでいただければと思います。

【図書館所蔵 本学教員著作コーナー（ラウンジ）：389.11/AIN

1 層書架：和書 389.11/AIN】

『臨床現場で活かす！よくわかる MMPI ハンドブック（基礎編）』

野呂浩史，荒川和歌子，井手正吾 編集

<金剛出版 2018 年>



MMPI は、正式名称 Minnesota Multiphasic Personality Inventory（「ミネソタ多面的人格目録」と訳されることが多い）という心理検査である。よくみかけたり、やったりすることのある、文章を読んで自分自身について「あてはまる」か「あてはまらない」を応えもらうタイプの検査である。このような心理検査を質問紙法とか目録法というが、この種の検査は無数といえる程作られてきている。だが、MMPI は世界的にいろんな場面で非常に多くの人に、そして長い間使われてきている。特に精神科をはじめとする病院臨床では、診断や治療について考えていく上で非常に役立っている。これは、投影法のロールシャッハ・テストと共通するところである。この二つの検査は、人間の様々な精神的・心理的な強さ・逞しさや弱さ・脆さを幅広く総合的にとらえることのできる検査である。そして両方ともに、新たな分析法や解釈法が工夫されて、今でも発展している検査でもある。

本書は、本学大学院臨床心理学研究科出身で、クリニックで心理的な治療や検査で活躍し、研究にも精力的に取り組んでいる荒川和歌子さんが中心になってまとめた MMPI のテキストである。やはり荒川さんが中心になり、多数の本学大学院修了生もかかわった「わかりやすい MMPI 活用ハンドブック 施行から臨床活用まで」（金剛出版，2011）に続くものである。ロールシャッハ・テストと比べると、MMPI は日本での利用度はかなり低く、日本語の関連著書も極めて少ないと言える。非常に残念といえる現状の中、本書は病院臨床中心ではあるが、あまり MMPI に馴染みがない初学者から臨床で活用できるように著されている。はじめのテキストもそうであったが、タイトル通り、非常にわかりやすく、読んで理解できるように文章も内容も工夫されている（私の記した章はかなりかたくりしいかもしれない）。もちろん、MMPI の活用の幅を大きく広げてくれるが、煩雑にもなりやすい追加尺度についても 100 程とりあげて、その解釈的な意味や解釈の進め方をわかりやすくまとめている。

臨床で患者に対しても、ていねいにわかりやすく関わっている、臨床家としての荒川さんの態度や熱意を感じるところである。応用編の刊行も期待して欲しいが、この本が、日本における MMPI、また他の心理検査の活用の幅をひろげ、適切な理解が進むことに少しでも役立つことを願うところである。

【図書館所蔵 本学教員著作コーナー（ラウンジ）：146.3/NOR

1 層書架：和書 146.3/NOR】

電子ブックの利用法

電子ブックとは、E-book、電子書籍などとも言われ、図書を電子化し、ネットワーク上で読むことができるものです。冊子体にくらべると、電子ブックには次のような利点があります。

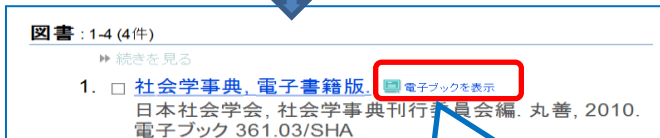
- ・学内のインターネットに接続できるデバイスであれば、どこからでも読むことができます。
- ・図書館の開館時間にかかわらず、いつでも読むことができます。
- ・図書の全文を検索できます。

本学図書館でも電子ブックが増えつつありますので、利用法についてご紹介します。

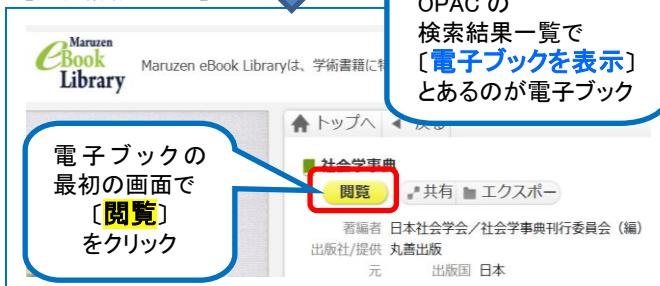
利用法 1) Maruzen eBook Library

現在、『地球の歩き方』52タイトル、『社会学事典』、『経営学事典』、『最新心理学事典』、『心理学総合事典』を閲覧できます。札幌学院大学図書館蔵書検索OPACを検索して利用できます。『地球の歩き方』は図書館HPトップページのメニュー「電子ブック(地球の歩き方)」からもアクセスできます。

【OPAC 検索結果一覧】



【詳細情報ページ】



【本文画面】



※必要部分を印刷／保存ください。

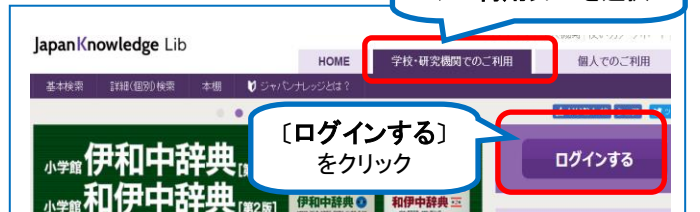
利用法 2) ジャパンナレッジ Lib (Japan Knowledge Lib)

『東洋文庫』、『新編日本古典文学全集』、『文庫クセジュベストセレクション』等や約 50 種類の事辞典を閲覧できます。

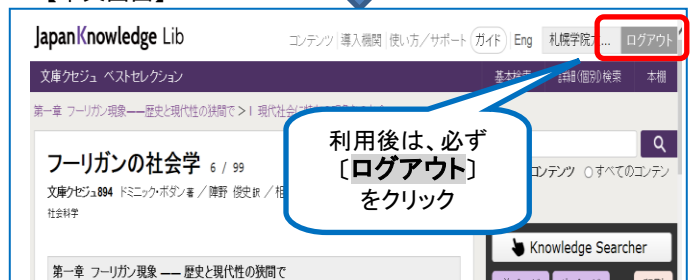
【図書館 HP トップページ】



【ログイン画面】



【本文画面】



※ジャパンナレッジ Lib の検索画面や画面上部のタブ「本棚」から図書を選べます。

編集後記

今号も、快く執筆やインタビューにご協力いただいた皆様のおかげで発行することができました。心から感謝申し上げます。巻頭言は「図書館 40 周年」と題し、今年 4 月に開館 40 周年を迎えた本学図書館についてです。当時の基本構想やコンセプトは今も色褪せることなく、これからも受け継がれていくことと思います。

*掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります（無断転載禁止）

紹介資料の画像掲載については各出版社に許諾いただいています。各出版社に心からお礼申し上げます。